

氏名	福屋俊昭		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙 第492号		
学位授与の日付	昭和47年3月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	胃運動の胃—胃外反射による調節—		
論文審査委員	教授 西田 勇	教授 砂田輝武	教授 田中早苗

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃の運動はその支配神経である交感および副交感神経の活動によって調節されている。この両神経の活動性は他の器官から反射的に調節されている。他方、胃の運動はその壁内神経叢を介する局所反射によっても調節されている。

本研究は胃幽門部から胃体部の運動に対して、また胃体部から胃幽門部に対してどのような反射性調節がおこなわれているかを研究したものである。胃幽門部の加圧伸展によって胃体部の運動は著明に抑制され、その閾値は 20mmHg であった。そして、この反射効果は主に迷走神経を介するものであり、迷走神経の緊張性衝撃が中枢性に抑制されるためにおこるものである¹⁾。他方、胃体門部の加圧伸展では胃幽門部の運動に主として抑制効果が、時に抑制と亢進効果が混合して現われる。亢進効果は迷走神経を、抑制効果は交感神経を介するものであり、その閾値は 50~60mmHg で、胃幽門部—胃体部抑制反射に比べて非常に起り難いものである²⁾。これら両反射の胃の運動機能に対する役割について考察した。

- 1) 迷走神経を求心ならびに遠心路とする胃幽門部—胃体部抑制反射について (日本生理誌 第31巻, 8号, 昭和44年8月に掲載)
- 2) 胃体部—胃幽門部反射 (日本生理誌 第33巻, 5号, 昭和46年5月に掲載)

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、胃幽門部と胃体部との間に、その運動に対して反射性調節がおこなわれていることをはじめ明らかにしたもので、これらの反射経路に関与する迷走神経、交感神経の役割について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。